

令和4年度 第2回 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議 議事要旨

開催日時	令和4年10月14日(金) 14:00~15:30
開催場所	大和高田市市民交流センター 4階 多目的室
出席者10名 (五十音順)	<p>浅野 誠 委員 (大和高田商工会議所 専務理事)</p> <p>岩脇 辰行 委員 (大和高田公共職業安定所 所長)</p> <p>竹平 均 委員 (連合奈良中和地域協議会 事務局長)</p> <p>会 長 鶴谷 将彦 委員 (奈良県立大学 地域創造学部 准教授)</p> <p>西岡 理人 委員 (奈良県農業協同組合 新庄営農経済センター 所長)</p> <p>副会長 増田 武雄 委員 (大和高田市町総代連合会 会長)</p> <p>村島 昭代 委員 (大和高田市民生児童委員協議会連合会 児童福祉部会 部長)</p> <p>吉川 哲生 委員 (南都銀行高田エリア エリア統括長兼支店長)</p> <p>谷河 照美 委員 (副市長)</p> <p>梶木 義敏 委員 (教育長)</p>
案 件	<p>1 第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における事業実施状況報告について〈基本目標3〉</p> <p>2 第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における事業実施状況報告について〈基本目標4〉</p> <p>3 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業実施状況報告について</p> <p>4 その他</p>
配布資料	<p>【資料1】 第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における事業実施状況報告について</p> <p>【資料2】 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業について</p> <p>【資料3】 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業実施状況報告について</p> <p>(附属資料)</p> <p>【附属1】 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱</p> <p>【附属2】 第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 体系図</p> <p>(計画等)</p> <p>○第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p>

以下、議事要旨

【案件1】第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における事業実施状況報告について

〈基本目標Ⅲ〉若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

出産希望の実現

(ご意見要旨)

特にご意見なし

子育ての希望の実現

(ご意見要旨)

○保育環境整備とは具体的にどのようなものですか。幼保施設についての再検討が行われているとのことですが、どのようなニーズを市としてくみ取られ、そのニーズに対してどのように対応されているのか、具体的に示して欲しい。長期計画については、進捗が見えにくいので、ソフト面、ハード面に分けて、長期計画、短期計画それぞれについて、報告する方が、わかりやすいように思う。

⇒ 子どもを通わせたいと思える安心・安全な保育施設が望まれるなか、現状は、子どもの数が減少しており、施設自体も老朽化が進んでいます。市といたしましては、建て替えやこども園構想も視野に入れながら、将来を見据え、安定した保育サービスを提供していくためには、持続可能な施設が必要であると考えており、施設の老朽化や人口減少を踏まえますと、施設の統廃合も検討していかないといけないと考えております。また、進捗の報告につきましても、長期計画のもだけでなく、各園が抱えている課題や要望に対する改善事例についてもご報告していくよう検討いたします。

○子育て拠点事業については、出前講座の実施というより、もっと身近に親子がいつでも集える施設が、親子で歩いて行ける場所にあることが望まれていると思います。「経済格差」が「体験格差」とも言われている中、ポーリングに行ったり、季節のイベント会を開催したり、「体験格差」を埋めることも担っていた地域の「こども会」も少子化でなくなってきたので、いつでも行けば、絵本や玩具があり、時にはイベントも開催されたり、小中学生が勉強したりと、誰もが安心して利用できる常設施設が必要ではないかと思う。また、こういった施設に対して、企業版ふるさと納税は活用できないのか。

⇒ 各小学校区に常設の子育て支援施設を作ることが望ましいと考えますが、現状、人員配置等、市としても対応が難しいところもある中で、子育て支援を望まれる方が多くいらっしゃることも事実であるため、今後は出前講座の開催数を増やし、市民の方と接する機会を増やしていきたいと思います。企業版ふるさと納税につきましても、活用可能な事業となりますので、前向きに考えていけたらと思います。

○国語及び算数・数学の内容がよくわかると思う子どもたちの割合について、「積み重ね」が大きい教科については、小学校低学年での「つまづき」が積み残されていき、高学年になればなるほど、理解度に大きな差がでてくる。その中で、先生はどのレベルを目標に授業をしていくのが難しく、わかる子にとっては、「つまらない」、わからない子にとっては「わからない、ついていけない」授業になり、結果、皆が満足できない授業になるように思うので、理解度別の授業を行ってはどうか。

⇒ 理解度別の授業については、学校の意見や、保護者からご理解を頂く必要がある等、検討箇所が多くあると認識しています。現状といたしましては、「つまづきがある」「学習内容に積み残しがある」児童・生徒には、各学校で保護者、子ども自身に声掛けをし、可能な時間の範囲で残って補修事業を行っています。その他にも、きめ細やかな指導ができるよう、新型コロナの臨時交付金を活用し、スクールサポートスタッフや学習指導員を採用しています。

○GIGA スクール構想の進捗と、こういった課題がありますか。

⇒ ネットワークを整えて、約4,000台の端末を1人1台、小中学校の児童生徒に配布し、授業の中で、補助教材として使用したり、ドリルをしたり、調べ学習を行ったりしています。どの学校でも平均以上の指導ができるよう、教員もスキルを身につけているところですが、さらなるスキルアップと、これを用いることにより児童・生徒の学力向上につなげていくことが課題と考えています。

## 結婚希望の実現

(ご意見要旨)

特にご意見なし

## 子育て情報発信の実現

(ご意見要旨)

○引っ越しを考えている方が、市のホームページ等で公開されている情報やデータを参考にされているという話を聞きます。

どんな補助金や助成金があって、どのようなサービスが受けれるのかということ、情報収集して転居先を決める要因とされることもあるようですので、結婚や子育てに関する補助や制度に関する情報一覧をホームページで公開する等の情報発信も必要だと思います。

⇒頂戴したご意見を参考にさせていただき、検討いたします。

【案件2】第2期大和高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略における事業実施状況報告について

〈基本目標Ⅳ〉地域が連携し、安心して暮らせるまちをつくる

## 時代の変化に対応できるまちづくり

(ご意見要旨)

特にご意見なし

## 人と人のつながりを生かしたまちづくり

(ご意見要旨)

○生活支援サポーターについて、サポーター数が指標になっているのはどうしてですか。サポーター数よりも、活動件数や、困られている方とのマッチング件数の方が重要ではないか。

⇒ 生活支援サポーターとして活動することで、地域との交流や繋がりを作りながら、サポーター自身の生きがいや健康寿命の延伸にも貢献するということから、生活支援サポーター数の増加も重要と考えます。また、支援サポート件数につきましては、相談件数は年間約 80 件あり、生活支援サポーターとのマッチング件数は約 20 件でした。今後、高齢化も進んでいきますので、困っておられる方が相談していただける体制をしっかり作ることが重要だと考えています。相談内容により、生活支援サポーターであったり、介護サービスであったりと、然るべき事業所等に繋げさせていただいています。

## 健康づくりの推進

(ご意見要旨)

○特定健診の受診率が低いことについて、どのように分析されていますか。また、受診率を向上させるためにどのようなことをされていますか。

⇒ 本市に限らず全国的な傾向になるかと思いますが、コロナ禍での「受診控え」も大きいと考えます。受診率向上のために、以前より特定健診の自己負担額を 0 円にさせていただいたり、受診された方に抽選で 50 名の方に商品券 1 万円分が当たるキャンペーン等行っております。また、今年度は、特定健診の未受診者に対し、アンケート調査を行い、その結果、若い世代 (40・50 代) の方については、健診を受診することには肯定的である反面、未受診の理由として、「手続きや予約が面倒」という回答が多かったことより、今後の取組みといたしましては、特定健診の web 予約の導入を検討しています。若年層で支援させて頂くことにより、受診者数の増加を図りたいと考えています。

○いきいき百歳体操の開催場所について、コロナ禍で外出を控えられている方や、家でやりたいと思われている方に対するフォローはありますか。

⇒ いきいき百歳体操の開催場所が増えることにより、地域のみなさまが気軽に集まれる場の創出にもつながると考えていますが、ご希望の方にDVDをお渡しさせていただいております。また、コロナ禍ということもあり、市のホームページにも動画をアップしています。

【案件3】新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業実施状況報告について

(ご意見要旨)

○プレミアム商品券事業について、事業実施後に、事業者に対して満足度アンケートや、事業に対する検証はされていますか。事業を行った結果や効果を広報等で公表される予定はありますか。

⇒ 市内事業者に対する満足度アンケート等は実施しておりませんが、「大変良かった」というお声を聞かせていただくことが多いです。利用される店舗に偏りがあるとのこと意見もあったことから、地域の商店街や中小規模店舗を支援することを目的とし「共通券」と「限定券」に分けさせていただきましたので、全体的には、偏りも軽減されたと考えています。事業については、委託事業者からの報告書を基に検証を行っています。事業結果の公表についても、検討させていただきます。

○スクールサポートスタッフについては、かなりよい事業だと思います。これは、今後も継続していただけたらいいなと思っていますが、市としての考えをお伺いしたい。

⇒ 学校の方からも、今まで以上にきめ細やかな指導ができているという声が上がっており、市としましても、今後も継続していきたいと考えています。

○GIGA スクール構想や、教育現場におけるデジタル化を推進するにあたり、端末を1人1台配布しているとのことですが、端末の故障が頻発していて、修繕費が財政を圧迫しているという報道を目にしたことがあります。高田市の現状はいかがですか。また、修理費等にこの臨時交付金は活用できるのですか。

⇒ 端末の故障については、修繕費等を含め、市費で対応しております。もし、故意に故障させた時などは、弁償ということになってきますが、そうではない限り、市で対応しています。臨時交付金の国の方向性としまして、用途を限定したものにかわりつつありますので、修繕等に臨時交付金を活用していくのは現状難しいというお答えとなります。

○新型コロナ推進交付金活用事業に対する全体的な検証結果

⇒ 新型コロナ推進交付金については、概ね各事業に関して、肯定的に活用されており、交付金がなくなった後も、できれば継続して欲しい、というご意見を委員のみなさまから頂戴いたしました。

【案件4】その他

会議全体に対するご意見の確認と、来年度の会議の進め方についての確認をさせていただきました。

(以上)